

ある冬の日

窓の外

雪がしんしんと降っている
外は寒いのだろうか

雪が横なぐりに降っている
外は風がきついのだろうか

永遠に続く空は
何かを察するかの如く 不気味

そして
荒れ狂った空が晴れ上がり
朝日が昇った

両手を合わせ
一縷の涙と共に
この世に存在する奇蹟に感謝する

もう少し
いや
もっともっと
生きていたい